

目次

- ◇国語
- ◇社会
- ◇数学
- ◇理科
- ◇音楽
- ◇美術
- ◇保健体育
- ◇技術・家庭
- ◇英語

○ 各教科の評価・評定について

- ・各教科における観点別学習状況は、各教科3観点の目標に照らしてその実現状況の評価し、A、B、Cにより通知します。
- ・評定は各教科の3観点の観点別学習状況の評価をもとに総括的に評価し、5、4、3、2、1により通知します。
- ・観点別学習状況の3観点の評価を同じ割合で総括し、評定とすることを基本とします。(割合については、教科、学期によって多少変わる場合があります。)
- ・下の表に、文部科学省が示す評価・評定の判断基準と本校における評価・評定の基準(達成度の目安)を示します。

観点別学習状況の評価	評定	本校の基準 (達成度の目安)
A:十分満足できると判断されるもの	5:十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	90%～ 100%
	4:十分満足できると判断されるもの	80%～ 89%
B:おおむね満足できると判断されるもの	3:おおむね満足できると判断されるもの	50%～ 79%
C:努力を要すると判断されるもの	2:努力を要すると判断されるもの	20%～ 49%
	1:一層の努力を要すると判断されるもの	0%～ 20%

※達成度は目安であり、教科、学期によって多少変わる場合があります。

第1学年 国語科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を養う。</p> <p>(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする事ができる。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
教科書	国語1（光村図書） 新編新しい書写1・2・3年用（東京書籍）
副教材	E 漢字（とうほう） よくわかる中学国文法（吉野教育図書） 国語便覧（浜島書店）

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>以下の事項について、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。</p> <p>(1)言葉の特徴や使い方に関する事項（漢字、語彙、文等のきまり、表現技法等）</p> <p>(2)情報の扱い方に関する事項（文章や資料等の関係を理解や整理等）</p> <p>(3)我が国の言語文化に関する事項（伝統的な言語文化や書写等）</p>	<p>各単元の中で設定されている「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を通して、既習の知識や技能等を適切に活用したり、複数の知識や技能等を結び付けたりしながら、学習課題や自分なりの問いに対して、考えたり、判断したり、表現したりしている。</p>	<p>各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、最後まで粘り強く学習しようとしている。</p>
<p>・テスト（定期、単元、技能等）</p> <p>※技能テスト：音読、スピーチ、書写作品等</p> <p>・授業の活動や発言</p> <p>・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）</p>	<p>・テスト（定期、単元等）</p> <p>・授業の活動や発言</p> <p>・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）</p>	<p>・テスト（定期、単元等）</p> <p>・授業の活動や発言</p> <p>・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）</p> <p>・振り返り</p>

3 学習についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等を捉え、自分なりの問いを持ち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。 ・文章を読む際には、内容や構造等を捉え、自分の考えを深めていくようにしましょう。 ・学習の記録（ノート等）は、工夫してまとめるとともに、自分の考えや気付いたことなども書き込みましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・自分が興味をもった本を中心に計画的に本を読むようにしましょう。 ・学校で学んだことをノートやプリントで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・毎日の家庭学習を確実な習慣にしましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	オリエンテーション 朝のリレー 野原はうたう せみ 原稿用紙の正しい使い方 法源と共通語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方や注意点をプリントで確認する。 ・詩の特徴を知り、背景や登場人物の信条の変化、作者の思いを想像し、味わう。また、作者の工夫にも気づく。 ・原稿用紙の使い方の決まりを覚える。 ・普段使っている方言を確認し、共通語への対応を学ぶ。
5	はじまりの風（読） 空中ブランコ乗りのキキ 情報を整理して説明しよう 文法の学習①	<ul style="list-style-type: none"> ・小説とは何か、について考える ・表現から、状況の変化と登場人物の変化を想像し、展開を楽しむ。 ・情報の聞き取り方や整理の仕方などを理解する。 ・言葉の単位・文節について理解する。
6	ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 文法の学習② 漢字の組み立てと部首	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の特徴をおおまかにつかむ。 ・指示語・接続語をもとに、筆者の主張のしかたを理解する。 ・さまざまな資料と本文との関係をつかむ。 ・著者の効果的に読ませるための工夫を知る。 ・分の成分について知る。 ・さまざまな部首があることを知る。
7	読書感想文の書き方 読書を楽しむ 6年目のクラス会	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の種類について知るとともに、読書感想文はどうやって書くかを学ぶ。 ・読書がもつ役割について理解する。 ・展開を楽しみ、感想文を書く。
9	大人になれなかった弟たちに…… 運峰③ 意見文を書こう 漢字の音訓	<ul style="list-style-type: none"> ・描写を基に登場人物の行動や心情の変化を捉える。 ・連文節とその活用について学ぶ。 ・テーマに沿って話し合い、自分の意見を持つ。 ・自分の主張とその理由を作文にする。 ・漢字の音読みと訓読みの違いとその理由を知る。
10	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 古典の基礎知識 竹取物語	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意見と根拠、文章の構成や展開の効果について考える。 ・古典とは何か、現代とはどんな点が違うかについて知る。 ・口語訳をもとに、小説として細部まで想像させる。 ・歴史的仮名遣いや古語について、典型的な例を覚える。 ・これ以降の古典学習のために冒頭部分を暗唱する。
11	矛盾と故事成語のいろいろ 漢文の基礎 「不便」の価値を見つめ直す	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語とは何か、現代でどのような働きをするかを知る。 ・現代に生きる様々な故事成語を覚える。 ・漢文の種類と、訓読文を書き下し分に変えるための「返り点」のルールを学ぶ。 ・必要な情報を取り出し、結び付けて要約するとともに、その内容に対する自分の意見を持つ。
12	二十歳になった日 大仏様は「にっこり」しています 書写（毛筆）	<ul style="list-style-type: none"> ・「随筆」のおおまかな特徴について知る。 ・作者が「それとなく」伝えたい内容を、いろいろな具体例から想像する。 ・毛筆の基礎知識を確認し、恰好とく見える筆遣いを覚える。 ・時分で書く題材を選び、工夫して書く。
1	ミミコの独立 少年の日の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・短い言葉を具体化し、出された疑問を考えることで、作者の作品に込めた思いを想像する。 ・状況の変化に伴う登場人物の信条の変化をつかむ。 ・「話し手」の感情が出ている表現に注意し、登場人物に対する評価を行う。また、感想文を書く。

2	詩の様々な表現技法 海の風景 漢字の成り立ち 暴れ川を治める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩・対句・体言止めなどのいろいろな表現技法について、具体的な例で覚える。 ・ 象形・会意など、様々な漢字の作られ方を知る。 ・ これまでの説明文学習の総まとめとして、抽象的な表現を具体化させ、グラフや地図などの資料の果たす役割について考える
3	方言のクッション 一年間の学びを振り返ろう ぼくが ここに	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随筆の面白さを十分に味わう。 ・ 一年間の学習の中から観点を決め、材料を集めて整理し、自分の考えを分かりやすく伝える。

※書写は、国語科の授業の中で年間20時間程度行われます。以下は、年間を通じた学習目標です。

- ・ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。
- ・ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く。

第1学年 社会科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。</p> <p>(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
教科書	社会科 中学生の地理 (帝国書院)、新しい社会 歴史 (東京書籍)、地図帳 (帝国書院)
副教材	『よくわかる社会の学習 地理1』(明治図書)、『地形図』(帝国書院) 『よくわかる社会の学習 歴史1』(明治図書)、『歴史地図』(帝国書院)

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【地理】 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域の特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>【歴史】 我が国の中世までの歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p>	<p>【地理】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。</p> <p>【歴史】 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>	<p>【地理】 世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>【歴史】 歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
定期テスト、単元テストや小テスト 単純な技能をはかる実技テスト など	定期テスト、単元テストや小テスト 複数の技能を組み合わせた実技テスト パフォーマンス課題などの課題 振り返りシートなどの記述 授業中の発言 など	授業中の活動や発言 振り返りシートなどの記述の変容 パフォーマンス課題などの課題 (自己調整・粘り強さ) など

※発言…言語活動を通して、話題や相手の話をもとに、思考しながら話をしたり、意見を述べたりすること

※パフォーマンス課題…思考のみならず、粘り強く考える意欲や、見方・考え方を働かせて考えようとする知的態度などが試されるような課題

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをしっかりと発信しましょう。その際には、資料や今までの学習などの根拠をもとに、理由もふまえながらの発信に心がけましょう。 ・他の人の考えにしっかりと耳を傾けましょう。その際には、自分の考えと比較し、同じところや違うところを考えながら、自分の考えを再構築しましょう。 ・「問い」の意識をもち、他の人の考えを聞いたり、地図帳や資料集を積極的に使ったりしながら、学習を深めていきましょう。 ・ノートへは、黒板に書かれたことだけではなく、自分の気づきや学習のポイントだと考えるところを積極的に書きましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やテレビから、社会で起こっている出来事を知り、授業で学習した内容との関連を見いだすとともに、現在進行的な社会事象への関心を高めましょう。 ・学習した内容に関連する資料を集めたり、調べものをしたりして、追究を深めましょう。 ・ノートやワーク、ドリルパーク、iプリア等を利用して、予習や復習をする習慣をつけましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	㊦【世界と日本の地域構成】 (地) 世界の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の六つの州と主な国の位置と名称や、緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料を活用したりする。 ・国名や国旗、国境線の特徴から、その国の歴史や文化が分かることや、さまざまな種類の世界地図の特徴を考察し、表現する。 ・地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究しようとする。
	(地) 日本の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中での日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し時刻を求めたりする。 ・世界の中での日本の位置や広がりや、日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究しようとする。
5	㊦【世界のさまざまな地域】 (地) 人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解する。 ・世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとする。
6	㊦【世界の諸地域】 (地) アジア州 (地) ヨーロッパ州	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 ・アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。
7	(地) アフリカ州	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題

9	<p>(地) 北アメリカ州</p> <p>(地) 南アメリカ州</p>	<p>の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
10	<p>(地) オセアニア州</p> <p>※世界の各国・諸地域の情勢によって、各州の学習順が入れかわることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
	<p>㊦【日本のさまざまな地域】</p> <p>(地) 地域調査のしかた</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解する。 対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取りあげ、それらを多面的・多角的に調査、考察し、表現する。 対象地域の特色や課題を主体的に追究しようとする。
11	<p>㊦【歴史へのとびら】</p> <p>(歴) 歴史をとらえる見方・考え方</p> <p>(歴) 身近な地域の歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。
	<p>㊦【古代までの日本】</p> <p>(歴) 世界の古代文明と宗教のおこり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりなど、人類が生み出していったものを多面的・多角的に考察し、表現する。 世界の古代文明や宗教など、人類が様々なものを生み出していったことについて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
12	<p>(歴) 日本列島の誕生と大陸との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
	<p>(歴) 古代国家の歩みと東アジア世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子らの政治や大化の改新、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の政治の変化や、古代の文化と東アジアとを関連付けながら、どのように律令国家が成立したかを多面的・

		<p>多角的に考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したのかについて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
1	<p>⑧ 【中世の日本】</p> <p>(歴) 武士の政権と成立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解する。 ・武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・武家政治の成立について、武士が社会を動かすほどの力をもつことになった理由とそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
2	<p>(歴) ユーラシアの動きと武士の政治の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。
3		<ul style="list-style-type: none"> ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、民衆がどのように力を持つようになったか、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

第1学年 数学科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を養う。</p> <p>(1)数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕</p> <p>(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3)数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
教科書	未来へひろがる数学1（啓林館）
副教材	数学の問題ノート

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、単元テスト等 ・授業中の様子や発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、単元テスト等 ・授業中の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート等） ・振り返りシートの内容（自己・相互評価）

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに身に付けた知識や考え方を利用して、課題を考える習慣をつけましょう。 ・自分の意見は、具体的に分かりやすく伝えるようにしましょう。 ・他の人の意見を聞くときは、自分の意見と比べながらしっかりと聞きましょう。 ・ノートやテキストには、黒板に書かれたことを写すのではなく、他の人の説明や、自分の考えを書き加えるなどして工夫して書くようにしましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない問題や間違えた問題は解答や教科書を参考に、次の授業までに理解できるようにしておきましょう。 ・授業で学習した内容に関連する問題（「ミライシード」の標準問題や発展問題）でしっかりと練習するようにしましょう。 ・定期テスト直前にまとめて学習するのではなく、計画的に問題集を進めておきましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数 1 0より小さい数 2 正の数・負の数で量を表すこと 3 絶対値と数の大小 	<p>(知) 正の数・負の数の必要性と意味を理解し、数直線上に表したり、読み取ったりすることができる。</p> <p>(思) 反対の性質をもつ量や、ある基準を決めたときの量を表すときの方法を考察し表現することができる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数の計算 1 正の数・負の数の加法、減法 2 正の数・負の数の乗法、除法 3 いろいろな計算 4 数の世界のひろがり 	<p>(知) 正の数・負の数の計算の意味を理解し、その計算ができる。</p> <p>(思) 算数で学習した数の計算と関連付けて、正の数・負の数の計算の方法を考察し表現することができる。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数の利用 1 正の数・負の数の利用 	<p>(知) 身近な事象を負の数を用いて表現し、処理することができる。</p> <p>(思) 身近な事象を数学的に捉え、正の数・負の数を用いて考察し表現することができる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を使った式 1 数量を文字で表すこと 2 文字式の表し方 3 式の値 	<p>(知) 文字を使うことの必要性和意味を理解し、文字式の約束に従い数量を文字式に表したり、文字式から数量を読み取ったりすることができる。</p> <p>・文字式に数を代入して、式の値を求めることができる。</p> <p>(思) 文字式での数量の関係の表し方や、式が何を意味しているのかについて考察し表現することができる。また、式の値を求める意味を、具体的な場面と関連づけて考察し表現することができる。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字式の計算 1 文字式の加法、減法 2 文字式と数の乗法、除法 3 関係を表す式 	<p>(知) 一次式の意味を理解し、計算ができる。また、数量の関係を等式や不等号で表したり、意味を読み取ったりすることができる。</p> <p>(思) 一次式の計算の方法を考察し表現することができる。また、文字式の数量関係の表し方や、式の意味を考察し表現することができる。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式 1 方程式とその解 2 方程式の解き 3 比と比例式 	<p>(知) 方程式の必要性、文字や解の意味を理解し、文字に数を代入し、その数が解であるかを確認することができる。また、移項の意味を理解し、方程式を解く方法を理解することができる。</p> <p>(思) 等式の性質をもとにし、方程式を解く方法を考察し表現することができる。また、数や文字式の計算と方程式を解く方法の違いについて考察し表現することができる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式の利用 	<p>(知) 事象の中の数量やその関係に着目して、方程式や比例式をつくり、</p>

10	1 方程式の利用 2 比例式の利用	その方程式や比例式を解くことができる。 (思) 方程式や比例式を具体的な場面で活用し、求めた解や解決の方法を振り返り、それが適切かどうかを考察し表現することができる。
	・関数 1 関数	(知) 関数の意味について理解し、具体的な事象の中から、ともなって変わる数量を見つけることができる。 (思) 表やグラフを用いて、変化の様子を調べることができる。
	・比例 1 比例の式 2 座標 3 比例のグラフ	(知) 具体的な事象から、比例の関係を見つけ、文字を用いた式に表すことができる。 (思) 具体的な事象から、比例の関係を見つけ、その変化をグラフや表を用いて表現することができる。
	・反比例 1 反比例の式 2 反比例のグラフ	(知) 具体的な事象から、比例の関係を見つけ、文字を用いた式に表すことができる。 (思) 具体的な事象から、比例の関係を見つけ、その変化をグラフや表を用いて表現することができる。
11	・比例、反比例の利用 1 比例、反比例の利用	(知) 比例・反比例の関係を利用して、身のまわり問題を、文字を使った式を使って表すことができる。 (思) 比例・反比例としてとらえられる二つの数量について、表、式グラフを用いて調べ、それらの変化と対応の特徴を見いだすことができる。
	・直線と図形 1 直線と図形	(知) 直線や角などについて、用語・記号を使って表すことができる。 (思) 平面における2直線の位置関係を見出し、表現することができる。
	・移動と作図 1 図形の移動 2 基本の作図 3 図形の移動と基本の作図の利用	(知) 図形の移動について理解し具体的な場面で、図形の移動と基本的な作図ができる。 (思) 移動の前後の関係から性質や関係を見いだすことができ、基本的な作図の方法を考察し、統合的にとらえ、表現することができる。
12	・円とおうぎ形 1 円とおうぎ形の性質 2 円とおうぎ形の計量	(知) 弧や弦などの円に関する用語を理解し、円の接線を作図することができる。また、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 (思) 円の接線の性質から円の接線の作図方法を考察し表現することができる。また、おうぎ形の弧の長さや面積、中心角の求め方について考察し表現することができる。
1	・立体と空間図形 1 いろいろな立体 2 空間内の平面と直線 3 立体の構成	(知) 角錐、円錐や多面体の意味と、見取り図、展開図、投影図について理解し、どのような立体を表しているのかを読み取ることができる。 ・空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ・平面図形や線分の運動によって、どのような立体が構成されるかや、回転体の意味を理解している。 (思) 形や面に着目し、立体の特徴と、見取り図、展開図、投影図を用いて立体の性質を見だし、考察し表現することができる。 ・空間における直線や平面の位置関係について考察し表現することができる。 ・柱体、錐体、球などの立体を、平面図形や線分の運動によって構成されていると捉えることができる。
2	・立体の体積と表面積 1 立体の体積 2 立体の表面積	(知) 立体の体積と表面積の求め方を理解し、求めることができる。 (思) 立体の体積と表面積の求め方について考察し表現することができる。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラムと相対度数 1 データを活用して、問題を解決しよう 2 整理されたデータから読み取る 	<p>(知) 目的に応じた資料を収集し、整理することができる。</p> <p>(思) 整理した資料を読み取り、物事を判断し、説明をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表やヒストグラムなどの必要性和意味を理解し、資料の傾向をとらえ、利用することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・データにもとづく確率 1 相対度数と確率 	<p>(知) 実験などを通して、確率の意味を理解し、身の回りの事象についての確率を求めることができる。</p> <p>(思) 多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。</p>

※「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の指導を踏まえ、各単元全体を通して、

- ・学習内容の必要性和意味を考えようとしている。
- ・学習内容について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
- ・学習内容を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。

の観点で評価する。

第1学年 理科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。〔知識・技能〕</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。〔思考・判断・表現〕</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>
教科書	未来へひろがる サイエンス1 (啓林館)
副教材	よくわかる理科の学習1年

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期・小テスト等 ・パフォーマンス(技能)テスト ・発言内容 ・指導に対する成果物(ノートやレポートの記述等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期・小テスト等 ・発言内容 ・指導に対する成果物(ノートやレポートの記述等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・指導に対する成果物(ノートやレポート等) ・振り返り

3 学習についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の『めあて』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・これまでに学習した内容をいかして、仮説や予想を立てるようにしましょう。 ・理科用語や器具の操作方法は単に覚えるだけでなく、その意味を理解した上で、活用できるようにしましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察・実験では、結果をわかりやすくまとめ、仮説や予想と比較しながら、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・学習した内容を『振り返り』、身のまわりの自然現象や日常生活の中の出来事との関わりを考えるようにしましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことをワークやICT教材等で復習をすることで、確かな力にしましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	自然の中にあふれる生命	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物がさまざまな場所で生活していることを見いだして理解する。 ・観察器具の操作、観察記録のしかたなどの技能を身につける。 ・いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点をもとにして分類できることを理解する。 ・分類のしかたの基礎を身につけること。 ・身近な生物を観察することで、生物に対する興味・関心を高める。
5	【生命】 いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだす。 ・植物の体の基本的なつくりを理解する。 ・共通点や相違点にもとづいて植物が分類できることを見いだして理解する。 ・植物に対する興味・関心をもち、植物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な動物の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだす。 ・動物の体の基本的なつくりを理解する。 ・共通点や相違点にもとづいて動物が分類できることを見いだして理解する。 ・動物に対する興味・関心を高め、動物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える。
7	【物質】 身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べる。 ・物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解する。
9	3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスバーナーや電子てんびんなどの実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。 ・気体を発生させてその性質を調べる実験を行う。 ・気体の種類による特性を理解する。 ・気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。 ・物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を、粒子のモデルで理解する。 ・水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。
10		<ul style="list-style-type: none"> ・物質の状態変化についての観察・実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。 ・物質の融点や沸点を境に状態が変化することを知る。 ・混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解する。

11	<p>【エネルギー】</p> <p>光・音・力による現象</p> <p>1章 光による現象</p> <p>2章 音による現象</p> <p>3章 力による現象</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。 ・凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさや向き関係を見いだす。 ・音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じること、音は波として空気中を約340m/sの速さで伝わること、および音の大きさや高さは音源の振動のしかたに関係することを見いだす。
12		<ul style="list-style-type: none"> ・物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動のようすが変わったりすることを見いだす。 ・力は大きさと向きによって表されることを理解する。 ・2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を見いだし理解する。
1	<p>【地球】</p> <p>活きている地球</p> <p>1章 身近な大地</p> <p>2章 ゆれる大地</p> <p>3章 火をふく大地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。 ・観察器具の基本的な扱いなどを身につける。 ・地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。
2	<p>4章 語る大地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の原因などをプレートの動きと関連づけて理解する。 ・さまざまな火山の活動などを調べ、それらの様子はマグマの性質が深く関係していることを考察するとともに、マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連づけて理解する。
3		<ul style="list-style-type: none"> ・地層の重なり方や広がり方の規則性、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測する。 ・地層のでき方を理解する。 ・プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的にとらえ、大地からの恵みや災害について理解する。

第1学年 音楽科 年間学習計画と評価

1 学年の目標等について

目 標	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)音楽表現を創意工夫することや音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3)主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
教科書	中学生の音楽1(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)
副教材等	コーラスフェスティバル(正進社)

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・授業における練習の様子 ・ペーパーテスト ・鑑賞レポート ・実技テスト(演奏・聴き取り等) ・ワークシート等への記述内容 ・イメージ画 など 		

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の約束(音符、拍子、音階、和音、強弱記号、速度記号など)を理解して、それらを生かして音楽の活動(歌唱、器楽、創作、鑑賞)に積極的に取り組みましょう。 ・曲の特徴やよさを理解して、ふさわしい表現(演奏)ができるよう工夫しましょう。 ・楽器の構造や特徴を理解し、それらを生かして演奏しましょう。 ・自分の声(音)だけでなく周りの声(音)をよく聴き、他者と話し合ったり、アドバイスし合ったりしながら、よりよい演奏となるよう工夫しましょう。 ・音のつながりに気をつけ、旋律やリズムを自分なりに工夫して創作しましょう。 ・作曲家や作詞者の思いや時代背景を知り、声や各楽器の音色、曲のつくり方などに気をつけて鑑賞しましょう。 ・ワークシートには、自分の思いや考え、感じたこと(感想)を書きましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活において流れている音楽に耳を傾けましょう。 ・興味をもった曲の作曲家、音楽の特徴やその背景となる文化や歴史を自分で調べてみましょう。

4 題材・目標等について

月	題材	題材の目標	教材
1 学 期	思いをこめて合唱しよう (斉唱)	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを込めて明るい声で合唱しよう。 ・作者のメッセージを受け止め、思いをこめて合唱しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌 ・ Well Find The Way
	曲の構成や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう(混声2部合唱導入)	<ul style="list-style-type: none"> ・混声(混合)2部合唱の響きを感じ取って歌おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の世界を
	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春
	合唱コンクール選曲	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの声の特徴を知り、曲の構成を理解し表現豊かに合唱しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス自由曲 ・指揮をしてみよう!
2 学 期	曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの役割を感じ取って合唱しよう。 ・曲想を生かして合唱しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールの曲 ・クラス自由曲 ・全校合唱
	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 魔王
	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう。 ・情景を思い浮かべながら、思いをこめて歌おう。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜辺の歌(共通教材) 赤とんぼ(共通教材) 歌い継ごう 日本の歌
	日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に古くから伝わる合奏を聴こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 雅楽「平調 越天楽」
3 学 期	箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に古くから伝わる箏の音楽を聴こう。 ・楽器の特徴を知り、その楽器にふさわしい音色や奏法を工夫して表現しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 箏曲「六段の調」 さくらさくら(箏)
	曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成や曲想の変化を生かして合唱しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式 式歌 「旅立ちの日に」 国歌「君が代」・校歌

第1学年 美術科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
教科書	美術1（光村図書）
副教材	特になし

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現方法を工夫して表している。 	<p>自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考える。それに加え、主題を生み出し豊かに発想し、構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げている。</p>	<p>美術の創造活動の喜びを味わい、友達と楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> アイディアスケッチ等 ワークシート 作品（基礎的な知識・技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子や発言内容 振り返りシート 作品や課題等（発想の豊か） 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートに書かれた内容の変化 自己評価用紙 作品や課題等（自己調整や粘り強さ）

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感性や個性を大切にして、美術の活動に取り組みましょう。 ・主題(自分の表したいこと)をもって制作に取り組みましょう。 ・主題をアイデアスケッチや文章に表現して、構想を練りましょう。 ・作品について感じたことを友達とじっくり話し合ひましょう。 ・鑑賞の学習では、作者の心情や表現の意図と工夫について考えましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、「きれいだな」「すてきだな」「おもしろいな」と思った絵やデザイン、写真、形などをスケッチしたり写真に撮ったりしてアイディアを貯めておきましょう。 ・いろいろなものをよく見ましよう。また、いつも見ているもの、身近なものでも、見る角度を変えると新しい発見があります。普段から「見方を変えて見る」ということをしてみましよう。 ・テレビ番組等のメディアから、美術に関する情報を積極的に収集しましよう。

4 主な題材・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な題材・教材等	主な学習目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・うつくしい ・教科書を活用しよう ○自然の色や形を見つめて (デッサン、透視図、色彩、構図) ○文字で楽しく伝える (レタリング、ポスターづくり) <ul style="list-style-type: none"> ・文字の基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科ではどのようなことを学ぶのかを知り、1年生で学ぶことや、3年間の学習の見通しをもつ。 身近なものや愛着のあるものを見つめ、感じ取った形や色彩、明暗、質感などの特徴や美しさを基に主題を生み出し、表現方法を工夫して絵で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の形や特徴を捉えて描き、明暗・立体感を表現する。 ・色相環など、色の基本や仕組みを理解する。 ・デザイン的な色のぬり方を身に付ける。 ・互いの作品を鑑賞し合ひ、表現の意図や工夫について理解を深める。 生活の中で読みやすい文字を考え、訴えたいことをわかりやすく人に伝える工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・明朝体・ゴシック体の基本を知り、自分で見やすい文字の表現を考える。 ・文字のもつ意味を考えながら、物を変形させデザイン化する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○心ひかれる この風景 (水彩画) ○生活の中の焼き物 (花瓶づくり) ○木と親しむ暮らし ・木の良さを感じる (スプーン制作) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや愛着のあるものを見つめ、感じ取った形や色彩、明暗、質感などの特徴や美しさを基に主題を生み出し、表現方法を工夫して絵で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の形や特徴を捉えて描き、明暗・立体感を表現する。 ・配色の工夫をして、季節、時刻、自分が感じたことを表現する。 粘土という材料を使って、ものづくりを行う経験があまりない。自分の作品を生活の中で使うことを前提に、材料の特性、成型や装飾を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインに必要な視点を考えていく。 日常生活を振り返ることで、心地よい感じを受けたときを再確認する。木のぬくもりを感じ、木を加工することで道具を使うことにも興味を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件を基に、自然物や人工物などの形や色彩の特徴の美しさから主題を生み出す。目的や条件などを基に、自然物や人工物などの形や色彩の特徴を捉えて、構成を工夫してデザインする。 ・目的や条件を基に、自然物や人工物などの形や色彩の特徴の美しさから主題を生み出す。

		<ul style="list-style-type: none">・スケッチなどにより形や色彩の特徴を捉え、単純化や強調をするなどして構成を考える。・効果を考えながら彩色する。・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について考えを深める。
3 学 期		<ul style="list-style-type: none">・木を加工する技能を身につけ、ていねいに仕上げる意欲を高める。・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について考えを深める。

第1学年 保健体育科 年間学習計画と評価

1 学年の目標等について

目標	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体として捉え、傷害にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>【体育分野】</p> <p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践できるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p> <p>【保健分野】</p> <p>(1)個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>
教科書	最新 中学校保健体育（大修館書店） ビジュアル新しい体育実技（東京書籍）
副教材等	ワークシート、プリント

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解している。 ・健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解している。 ・各領域の運動の特性に応じた基本的な技能や保健に関する基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。 ・自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・学習カードや授業ノートの記述 ・定期テスト等 ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・学習カードや授業ノートの記述 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・学習カードや授業ノートの記述

3 学習についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等を捉え、自分なりの課題をもち、その解決に向け工夫して取り組みましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞き、自分に取り入れましょう。 ・どの学習活動も粘り強く取り組みましょう。 ・学習カードなどは、この時間学んだことや次の時間の課題などを整理するようにしましょう。 ・ルールやマナーを守り、怪我や事故に気をつけ、安心・安全な活動につなげましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に入る前には、教科書等の内容を読むようにしましょう。 ・授業で学んだ健康や安全など保健に関わる知識や技能は、家庭でも活用するように心がけましょう。

4 主な単元・教材及び目標

月	主な単元・教材等	学習を通して身に付ける力
1 学 期	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・心や体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合う。 ・自分の課題を発見し、解決に向けて運動に取り組み方を工夫するとともに、自分や仲間が考えたことを伝える。 ・運動に積極的に取り組み、仲間の学習を援助しようとする。 ・健康・安全に気を配ることができる。
	球技 ・ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・自分の課題を発見し、解決に向けての取り組み方を工夫するとともに、自分の考えたことを伝える。 ・積極的に取り組み、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、友達のプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助することなどや、健康・安全に気を配ることができる。
	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。 ・自分の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、考えたことを伝える。 ・積極的に取り組み、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、仲間の課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配る。
	健康な生活と病気の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活習慣と健康について理解する。 ・課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合う。 ・課題の解決に向けた学習に自主的に取り組む。
	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツが多様であることについて、理解する。 ・運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。 ・運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組む。
2 学 期	陸上競技 ・短距離走・リレー ・ハードル走 ・走り高跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・【短距離走・リレー】滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができる。 ・【ハードル走】リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。 ・【走り高跳び】リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。 ・自分の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自分の考えたことを伝える。 ・積極的に取り組み、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、仲間の課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。
	球技 ・ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。 ・自分の課題を発見し、解決に向けての取り組み方を工夫するとともに、考えたことを伝える。 ・積極的に取り組み、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、友達のプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助することなどや、健康・安全に気を配ることができる。

	心身の機能の発達と心の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。 ・課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合う。 ・課題の解決に向けた学習に自主的に取り組む。
	球技 ・ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防ができる。 ・自分の課題を発見し、解決に向けての取り組み方を工夫するとともに、自分の考えたことを伝える。 ・積極的に取り組み、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、友達のプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助することなどや、健康・安全に気を配ることができる。
	器械運動 ・マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・【マット運動】回転系や功技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行ったり、それらを組み合わせたりすることができる。 ・積極的に取り組み、よい演技を認めること、仲間を援助すること、仲間の課題に応じた課題や挑戦を認めることなどや、健康・安全に気を配る。
3 学 期	心身の発達と心の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。 ・課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合う。 ・課題の解決に向けた学習に自主的に取り組む。
	武道 ・剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解することができる。 ・剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりすることができる。

※各運動領域において、その運動ならではの楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することも身に付ける力として含む。

第1学年 技術科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を養う。</p> <p>(1)生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕</p> <p>(2)生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
教科書	技術・家庭 技術分野（東京書籍）
副教材	ワークシート・プログラミング教材（Smalruby,micro:bit,Scratch 等）

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、小テスト等 ・技能テスト、準備・掃除 ・提出作品の課題達成状況 ・ワークシートへの記述 ・授業の様子や発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期、小テスト等 ・授業の様子や発言内容 ・ワークシートへの記述 ・レポート、発表資料等 ・振り返りの記述 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・課題に取り組む姿 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） ・振り返り（自己・相互評価）

3 学習についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は安全に留意し、けがや事故等が起きないように、周囲に気を配って行いましょう。 ・出された課題に対して、班や学級の友人と協力して、粘り強く取り組みましょう。 ・課題の解決や思考のために、常識にとらわれず、様々な角度から工夫して取り組みましょう。 ・タブレットを上手に活用し、自分から進んで調べたり、クラスで交流したりしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものやことに興味を持ち、疑問や課題を見つけ、自分なりに調べ、考えましょう。 ・配布されたプリントはファイルに閉じ、なくさないようにしましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容で分からない部分は復習をしておきましょう。 ・作図や作業の手順、機械や道具の名前、使い方のポイントなどをしっかりと確認しておきましょう。 ・タブレットを持ち帰った際は、Classroom を活用して、意見の交流などを行いましょう。 ・家の手伝いを積極的に行い、学習した内容を活かそうと心がけましょう。 ・学習した内容が、身の回りのどこに活用されているかを見つけてみましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	・ガイダンス	・技術の見方・考え方を知り、身近な生活の中にある工夫や課題を見つけ、よりよい生活に向けて改善しようとする。
5	・情報についての基礎的・基本的な知識・技能	・情報の表現、記録、計算、通信などについての科学的な原理・法則の理解・情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組みの理解することができる。
6	・メディア作品の製作	・伝える目的や伝える相手を想定し、発表するための資料の作成をすることができる。 ・自他の表現を比較したり、評価したりするなかで、解決策を考え改善するなど、課題を見つけ解決することができる。 ・知的財産権について理解し、権利を侵さずに資料を活用することができる。
7	・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	・情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みの理解することができる。 ・安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等を行うことができる。
9	・計測・制御のプログラミングによる問題解決	・情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見だし課題を設定し解決することができる。 ・自分のプログラムをデバッグしたり最適化したりするために工夫し、よりよい方法を思考し、実現することができる。
10	・社会の発展と情報の技術	・身の回りの生活の中にある、情報の課題を見つけ、その達成の方法を考え、自らの生活に生かそうとすることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりすることができる。

第1学年 家庭科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、食住などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 〔知識及び技能〕</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
教科書	技術・家庭 家庭分野（東京書籍）
副教材	ワークノート オリジナルワークシート ビデオ

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、食住などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題や解決策を見いだして課題を設定、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期・小テスト等 ・パフォーマンス（技能）テスト ・授業の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期・小テスト等 ・授業の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） ・振り返り（自己・相互評価）

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等を捉え、自分なりの問いを持ち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。 ・学習の記録（ノート、ワークシート等）は、工夫してまとめるとともに、自分の考えや気付いたことなども書き込みましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ワークノート、ワークシート等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・学習したことを、家庭で実践してみましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

時間	主な単元・教材等		主な学習目標
1	1編 未来につながる家庭分	1章 家庭分野のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いによって、これまでの自分を振り返る。 家庭科の学習が生活の自立や持続可能な社会の形成につながることに気づく。
2		2章 私たちの家庭と家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくすることができることを理解する。
2		1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割について理解し、毎日の食生活に関心をもつ。 健康によい食習慣について学び、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。
4		2章 中学生に必要な栄養素を満たす食事	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 食品は、栄養的特質により、食品群に分類させることを、理解する。 1回の食事を目で見ても栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。
2	2編 私たちの食生活	3章 調理のための食品の選択と購入	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の特徴がわかる。 目的に応じて生鮮食品を確かな目で選択・保存できる。 加工食品の特徴がわかる。 目的に応じて加工食品を選択できる。 食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択できるようにする。
14		4章 日常食の調理と地域の食文化	<ul style="list-style-type: none"> 調理における衛生と安全を理解し、実践できるようにする。 肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。 野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。 各食品群の食品を組み合わせ、栄養バランスのとれた1日分の献立を考えることができる。
4		5章 持続可能な食生活	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。
6	4編 私たちの住生活	1章 住まいの役割と安全な住まい方 2章 持続可能な住生活を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの基本的な役割について理解し、日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 家庭内の事故の種類と原因を知り、幼児や高齢者の安全を考えた住まい方を工夫する。

第1学年 外国語科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと（やりとりを含む）、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。〔知識、技能〕</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。〔主体的に取り組む態度〕</p>
教科書	Here We Go! ENGLISH COURSE 1
副教材	<p>英語のパートナー1（正進社）</p> <p>英語マスターノート（明治図書）</p> <p>New Penmanship 1（教育同人社）</p>

2 評価の観点及び方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や身近な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や身近な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。</p>	<p>主体的に英語で話されることを聞こうとすると同時に、外国語の背景にある文化に対する理解を深めている。</p>
読むこと	<p>〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や身近な話題について書かれた短い文章を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。</p>	<p>主体的に英語で書かれたことを読もうとすると同時に、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができる。</p>

話すこと（やり取り）	<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や身近な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や身近な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。</p>
話すこと（発表）	<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や身近な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や身近な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。</p>
書くこと	<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や身近な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や身近な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期・単元テスト等 ・ パフォーマンステスト ・ 授業様子や発言内容 ・ 指導に対する成果物（ノート、ワークシート等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期・単元テスト等 ・ パフォーマンステスト ・ 授業様子や発言内容 ・ 指導に対する成果物（ノート、ワークシート等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期・単元テスト等 ・ パフォーマンステスト ・ 授業様子や発言内容 ・ 指導に対する成果物（ノート、ワークシート等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の様子や発言内容 ・ パフォーマンステスト ・ 指導に対する成果物（ノート、ワークシート等） ・ 振り返り（自己・相互評価）

3 学習についてのアドバイス

学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れずに、積極的に英語を使いましょう。 ・音読練習や会話練習などは、しっかり声を出して練習しましょう。 ・ペアやグループでの活動に意欲的に取り組みましょう。 ・授業だけでなく、授業以外の時間も積極的にYEFの先生に話しかけましょう。 ・単元終了時や定期テスト後に自分の理解度を振り返り、見直しをしましょう。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容は、その日にワークなどを活用して復習しましょう。 ・教科書の本文を、何度も音読しましょう。 ・言えるようになった英文を、ノートに書くなどして繰り返し練習しましょう。 ・予習として、単語調べをしておきましょう。 ・テレビ、ラジオ、インターネット等を通して、英語に触れる機会を自主的に作りましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	Let's Be Friends!	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの気持ちをたずね合ったり、会話を聞いて場面を考えたりすることができる。 ・好きな色、行きたい国、誕生日について聞き取ったり、話したり書いたりすることができる。 ・数を表す言葉を読んだり聞いたり言ったりすることができる。 ・アルファベットの大文字と小文字を聞いて書き取ることができる。 ・音とつづりの関係を考えて、基本的な単語を聞き取ったり言ったりすることができる。
5	Unit 1 Here We Go!	<ul style="list-style-type: none"> ・会話から、その人の情報を聞き取ることができる。 ・自己紹介カードに、自分の情報を書くことができる。
6	Unit 2 School Activities	<ul style="list-style-type: none"> ・会話から、興味のあることなどについての質問を聞き取ることができる。 ・友達に興味のあることなどをたずねたり、相手の返答に応じて自分がしている活動に誘ったりするやり取りをすることができる。
6	World Tour 1 世界の中学生①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中学生の生活の様子を理解することができる。
7	Unit 3 Enjoy the Summer	<ul style="list-style-type: none"> ・会話から、話し手が夏休みにすることなどを聞き取ることができる。 ・グループになり、自分が夏休みにすることやしたいことについて話すことができる。
7	Let's Read 1 What Am I?	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文から、クイズの解答に必要な情報を読み取ることができる。
7	Active Grammar 1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と相手のことを伝える言い方を理解し、使うことができる。
7	You Can Do It! 1 友達の新しい一面を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを伝え、相手のことをよく知ることができる。 ・知っている情報を手がかりに、友達に質問をし、情報を

		聞き出すことができる。
9	Unit 4 Our New Friend	<ul style="list-style-type: none"> ・人物紹介から、基本的な情報を聞き取ることができる。 ・身近な人などについて、基本的な情報を紹介することができる。
	Daily Life 2 落とし物	<ul style="list-style-type: none"> ・落とし物の持ち主を探すやり取りができる。
10	Active Grammar 2	<ul style="list-style-type: none"> ・代名詞の使い方を理解することができる。
	Unit 5 Hi, David!	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットのやり取りから、必要な情報を読み取ることができる。 ・観光プランを考えるために、時間や場所の希望をきき出すことができる。
11	Daily Life 2 注文	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や注文のやり取りをすることができる。
	Unit 6 Cheer Up, Tina	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文から、その人物が誰かを読み取ることができる。 ・友達のすてきなところが伝わる、紹介文を書くことができる。
	Daily Life 3 バス停	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻についてのやり取りをすることができる。
12	Active Grammar 3	<ul style="list-style-type: none"> ・is や3人称単数現在形の形や意味、働きを理解することができる。
	Daily Life 4 道案内	<ul style="list-style-type: none"> ・行き方をたずねたり伝えたりすることができる。
	Active Grammar 4	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞を使ったいろいろな疑問文とその答え方を理解し、使うことができる。
	You Can Do It! 2 ゲストの魅力を伝える MC になろう	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介するゲストを決め、その人についての情報を書き出した後、伝えたい情報を整理しながら台本を作成することができる。 ・身近な人のことを紹介することができる。
1	Unit 7 The New Year in Japan	<ul style="list-style-type: none"> ・はがきから、出来事や感想などを読み取ることができる。 ・冬休みの出来事や感想などを伝えるはがきを書くことができる。
2	Active Grammar 5	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の過去形の形や意味、働きを理解することができる。
	Daily Life 5 イベントの案内	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの案内から、必要な情報を読み取ることができる。
	Unit 8 Getting Ready for the Party	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子の説明を聞き、おおまかな内容を捉えることができる。 ・場面の様子が伝わるように、起こっていることを説明することができる。
3	World Tour 2 世界の中学生②	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の紹介動画を見て、おおまかな内容を捉えることができる。
	Active Grammar 6	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形・過去進行形について理解し、使うことがで

	きる。
Let's Read 2 The Lion and the Mouse	・物語からあらすじを読み取ることができる。
You Can Do It! 3 学校行事の紹介ページを作ろう	・学校紹介を度聞いて、自分が体験してみたいことを考えることができる。 ・イベントや学校を紹介することができる。
Let's Read more My Japanese Lessons	・レポートを読んだの英文の概要を読み取り、感想や意見を持つことができる。